

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日平成 22年 2 月 3日

## 【評価実施概要】

|               |  |       |           |
|---------------|--|-------|-----------|
| 事業所番号         | 4079000065   |       |           |
| 法人名           | 有限会社 ミモレ・ダイコク  |       |           |
| 事業所名          | グループホーム 「 やまびこ 」                                       |       |           |
| 所在地<br>(電話番号) | 〒835-0104 福岡県みやま市山川町河原内1224番地<br>(電話) 0944 - 64 - 9700 |       |           |
| 評価機関名         | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会                                   |       |           |
| 所在地           | 福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5 - 27                                 |       |           |
| 訪問調査日         | 平成22年1月28日   | 評価確定日 | 平成22年2月6日 |

## 【情報提供票より】(平成22年1月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |            |                                    |      |
|-------|------------|------------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成15年11月1日 |                                    |      |
| ユニット数 | 2 ユニット     | 利用定員数計                             | 18 人 |
| 職員数   | 18 人       | 常勤(専任 10人 兼務 3人) 非常勤 5人 常勤換算 16.9人 |      |

### (2) 建物概要

|      |           |     |      |
|------|-----------|-----|------|
| 建物形態 | 単独型       | 築年  | 築6年  |
| 建物構造 | 木造一部鉄骨 造り |     |      |
|      | 1階建ての     | 階 ~ | 1階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |               |                |                |
|---------------------|---------------|----------------|----------------|
| 家賃(平均月額)            | 24,000 円      | その他の経費(月額)     | 光熱水道費 12,000 円 |
| 敷金                  | 有 ( 72,000 円) |                |                |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 無             | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無          |
| 食材料費                | 朝食            | 300 円          | 昼食 300 円       |
|                     | 夕食            | 300 円          | おやつ 100 円      |
|                     | または 1日当たり 円   |                |                |

### (4) 利用者の概要(平成22年1月16日現在)

|       |          |      |     |        |
|-------|----------|------|-----|--------|
| 利用者人数 | 18名      | 4名   | 女性  | 14名    |
| 要介護1  | 8名       | 要介護2 | 6名  |        |
| 要介護3  | 3名       | 要介護4 | 1名  |        |
| 要介護5  | 0名       | 要支援2 | 0名  |        |
| 年齢    | 平均 86.6歳 | 最低   | 72歳 | 最高 97歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 協力医療機関名 | くさかべまきクリニック ・山内医院 ・植田医院 ・ひかり歯科医院 |
|---------|----------------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「やまびこ」はみかんの木や段々畑に囲まれ、太陽の光がさんさんと降り注ぐ、風光明媚な自然環境の中の住み慣れた地域で、懐かしい風景と懐かしい人々と一緒に、笑顔の毎日を過ごしている2ユニットのグループホームである。利用者と職員は畑で栽培した野菜類を使い、名水の水で調理し、ほかほかのご飯で頂く食事は、利用者の日々の活力を与えている。利用者の健康管理は万全で、在宅医療、訪問看護、を利用し、AEDを設置し、いつまでも安心して暮らせるように配慮がされている。利用者の身体機能維持、向上のために、理学療法士によるリハビリや毎日の生活リハビリで家族も驚くほどの回復ぶりである。また、地域の梅まつり、平家祭り、福祉まつり、敬老会、おにぎり大会等の行事に参加したり、幼稚園児の訪問やホームの秋祭りに地元の方に参加してもらい、地域との交流も活発である。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  |
|      | 前回の改善点は、「権利擁護に関する制度の理解と活用」、「同業者との交流」の2件であったが、はホーム関係者全員で取り組んだ結果、改善出来ている。は福岡県グループホーム協議会や全国ネットの協会等に参加し、技術や情報の交流、職員間の相互訪問を通じて介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。  |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)   |
| 重点項目 | 自己評価は管理者、職員が意見を出し合い、話し合っ作成している。施設長は外部評価の意義と改善に向けた活用方法を、職員に日ごろから良く説明し、理解してもらい、職員一人ひとりが目標を持って仕事出来る体制である。  |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  |
| 重点項目 | 会議は利用者、家族、地域代表、民生委員、有識者、行政職員、ホーム代表、施設長、管理者が参加し、2ヶ月毎に定期的開催している。時には、職員の演奏や人形劇、利用者の楽器演奏や家族ゲーム等で楽しみ、時間の立つのを忘れるくらいの盛り上がりである。                             |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  |
| 重点項目 | 玄関に苦情受付箱を設置したり、苦情受付窓口の掲示をしているが、家族からの意見はなかなか出てこない。施設長と職員は、家族会や家族来訪時に一緒にお茶を飲んだりして、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告したりして、意見や要望を聴きだし、出された意見をホーム運営に出来るだけ反映出来るように努力している。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
| 重点項目 | 開設して7年を迎え地域の梅まつり、平家祭り、福祉まつり、敬老会等の行事に利用者と職員が参加し、近所の方と顔なじみになり、散歩等の途中で出合っ、野菜などの差し入れをもらったり、ホームの秋祭りに招待し、参加してもらったり、幼稚園児との交流等、地域のグループホームとして、活発な交流の輪が出来ている。 |

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-------|----------------------------------|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |  |   |       |                                  |
| 1. 理念と共有              |    |  |   |       |                                  |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 住み慣れた町で、懐かしい人や心を大切に、毎日が、笑顔で楽しく暮らせるように支援しているという理念を掲げ、利用者は日々の生活を安心して、穏やかに過ごしている。  |       |                                  |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 施設長、管理者、職員は毎日理念を唱和し、理念の意義を良く理解して、実践に向けて日々努力している。  |       |                                  |
| 2. 地域との支えあい           |    |  |   |       |                                  |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | ホーム主催の秋祭りには地域に案内を出し、たくさんの方に参加してもらい、幼稚園児との交流は利用者の楽しみの一つである。また、地域の梅まつり、平家祭り、福祉祭り、敬老会等に、利用者職員が参加し、地域に密着したグループホームとして、交流の輪が広がっている。 |       |                                  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |  |   |       |                                  |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 自己評価は職員全員で話し合い、作成している。施設長、管理者、職員は、評価を外部から受けることで、新鮮な感覚で、利用者に関わることが出来、たくさんの気づきを発見し、目標設定をしている。                                   |       |                                  |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月毎に固定したメンバーで開催し、時間の立つのを忘れるくらい、盛況である。外部の方が参加して、定期的開催する会議は、議題、議事録、出された意見等、有意義で、ホーム運営に反映し、ホームの今後の運営に大きな力となりつつある。            |       |                                  |
| 6                     | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                  | 市の介護保険課、福祉課に、ホームの現況や利用者の相談等で訪問し、意見交換し、地域の介護サービスの質の向上を目指している。  |       |                                  |

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 7               | 10 | 権利擁護に関する制度の理解活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している                        | 以前は、日常生活自立支援事業の該当者がいて、制度を利用していたので、施設長、職員は制度について理解している。また、成年後見制度については、資料を用意し、内部学習会を行い、理解している。                        |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |   |      |                                  |
| 8               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている  | やまびこ通信を毎月発行し、利用者の毎日の暮らしと、健康状態や金銭出納簿の写しを、一緒に送付し、家族に報告し安心してもらっている。  |      |                                  |
| 9               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている  | 玄関に意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示して、家族の意見を聴くようにしている。また、運営推進会議の後に、参加された家族と歓談する場面を作ったり、家族の来訪時等に意見や要望を出してもらい、ホーム運営に反映できるように、工夫している。 |      |                                  |
| 10              | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                 | 職員の離職を防止するために、相談や援助を職員一人ひとりにしている。やむを得ず異動する場合は、利用者のダメージを最小限に抑えるように、馴染みの関係で、引き継ぎが出来るようにしている。                          |      |                                  |
| 11              | 19 | 人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障 | 職員採用は、年齢、性別の制限はない。職員のロッカーや休憩室を用意し、休憩時間を取り、リフレッシュして、活き活きと仕事に取り組む体制がある。   |      |                                  |
| 12              | 20 | 人権教育・啓発活動<br>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる                              | 毎日のミーティングで、施設長が、高齢者の人権問題について話しをして、尊厳と、優しさを持って介助していくことを、職員全員が共有できるように取り組んでいる。  |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |   |      |                                  |
| 13              | 21 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                              | 施設長は、職員の勤務年数や習熟度に合わせ、交代で、外部や内部の研修会に積極的に参加してもらい、ホームの介護サービスに活かしている。   |      |                                  |

| 外部  | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|---|----|---|---|------|--|
| 14  | 22 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>       | <p>行事や研修会を通じた交流で、情報交換等はあるが、グループホーム協議会などの加入はしていない。</p>   |      | <p>福岡県グループホーム協議会や、全国ネットの会などと積極的に、勉強会や情報、技術等の交流を図り、職員間同士の相互訪問などで、地域のグループホーム事業者としてサービスの質の向上と質の確保に繋げていくことが望まれる。</p> |
| <p><b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> |    |   |   |      |  |
| 15  | 28 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>入居希望者の自宅や施設を訪問したり、入居希望者と家族と一緒に見学に来てもらい、法人内のデイサービスで顔見知りになってから、入居希望者、家族の納得の下、利用してもらっている。</p>                           |      |  |
| <p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>                                  |    |   |   |      |  |
| 16  | 29 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                        | <p>職員の半数が勤続年数が長く、利用者と本当の家族のような関係で、教えたり、学んだり、心配したり、心配されたり、喜びや悲しみを共有し、和やかな雰囲気である。</p>                                     |      |  |
| <p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>        |    |   |   |      |  |
| 17  | 35 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>  | <p>職員は利用者一人ひとりの希望や意見を根気よく聴き、出来るだけ本人の意見に添えるように努力している。また、意向の表出が難しい利用者には、元気の良い頃からの利用者の介護を担当している職員や家族と相談して、意向の把握に努めている。</p> |      |  |
| <p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>                             |    |   |   |      |  |
| 18  | 38 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>         | <p>定期的カンファレンスを開き、職員や関係者と検討し、利用者や家族の意見や要望を聴き、了解のもと、介護計画を作成している。</p>  |      |  |
| 19  | 39 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>     | <p>介護計画の見直しは3ヶ月毎に行い、利用者の状態変化に合わせ、その都度、家族、関係者と話し合い、介護計画の見直しを実施している。</p>  |      |  |

| 外部                                     | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |  |  |      |                                  |
| 20                                     | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 利用者や家族の要望を出来るだけ取り入れ、買い物、外出、帰宅、病院や理・美容院の送迎等の支援をしている。また、AEDを設置し、全職員研修を受けて実践出来る体制がある。                             |      |                                  |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |  |  |      |                                  |
| 21                                     | 45 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 利用者や家族の希望を取り入れ、かかりつけ医の受診と在宅医療や訪問看護を利用して、緊急時や24時間体制で、利用者の健康管理に取り組んでいる。  |      |                                  |
| 22                                     | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ターミナルケアの指針を作成し、利用者の状態変化に備え、家族や関係者と話し合い、方針を共有し、安心して日々の暮らしが楽しいものであるように支援している。                                    |      |                                  |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援                |    |  |  |      |                                  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                        |    |  |  |      |                                  |
| (1)一人ひとりの尊重                            |    |  |  |      |                                  |
| 23                                     | 52 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 施設長と職員は、利用者の尊厳を大切に、トイレ誘導など、耳元で話しかけ、さりげなく誘導している。また、個人情報の資料は人目に触れない場所に保管している。                                    |      |                                  |
| 24                                     | 54 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | ホームの一日の流れはあるが、職員は利用者のその日の状態や、希望を優先し、利用者一人ひとりのペースで一日が、暮らせるように優しく、支援している。  |      |                                  |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援           |    |  |  |      |                                  |
| 25                                     | 56 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている                | 食事は小鉢にたくさんの種類の料理を、彩りと、盛り付けに工夫し、利用者の中に職員が座り、賑やかな食事風景である。また、利用者と職員が一緒になって、季節に合わせた料理やおやつ、干し柿、漬物等を利用者の指導で作ったりしている。 |      |                                  |
| 26                                     | 59 | 入浴を楽しむことのできる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している               | 入浴は週3回であるが、希望者は毎日でも可能である。入浴を拒む利用者には、職員が根気よく説得したり、翌日に延期したりして、楽しく入浴ができるように支援をしている。                               |      |                                  |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |                                  |
| 27                                   | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている          | 利用者と職員が一緒になって、生活リハビリも兼ねて、習字、はり絵、ぞうきん作り、おやつ、干し柿、漬物作りなどを取り入れ、毎日の生活がマンネリ化しないような、気晴らしの支援をしている。      |      |                                  |
| 28                                   | 63 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                            | 利用者の希望に応じて外出、通院、買い物、散歩、外食ツアー等、外出の機会をつくり、個別対応をしている。  |      |                                  |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |                                  |
| 29                                   | 68 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる                   | ホームの事情や利用者の状態に関わらず、自由で、開放的な暮らしが出来るように、日中は玄関、居室の鍵はかけていない。  |      |                                  |
| 30                                   | 73 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている               | 防災訓練は年に2回、消防署の指導で実施し、地域の方の参加のお願いをしている。災害時の飲料水、毛布を用意している。また、災害時に電気、水道、ガスが、使用できない場合の非常食の備蓄も考えている。 |      |                                  |
| <b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>    |    |   |   |      |                                  |
| 31                                   | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                  | 職員は利用者一人ひとりの食事量、水分量と尿量を記録し、医師と相談して、利用者の心身の状態を考慮しながら、介護サービスを実践している。                              |      |                                  |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>       |    |   |   |      |                                  |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>               |    |   |   |      |                                  |
| 32                                   | 83 | 居心地のよい共用空間づくり   | 居間や玄関は開放的で、天窓から射し込む太陽の暖かい光は、ボカボカと暖かく、利用者一人ひとりが寛げるソファを配置し、中庭や畑で過ごす、ゆったりとした時間は、自由でのびのびとしている。      |      |                                  |
|                                      |    | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている |   |      |                                  |
| 33                                   | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 居室は、利用者の馴染みの家具や道具を、家族の協力で持参してもらい、自宅で過ごしているような環境の中で、居心地良く暮らせるように工夫している、                          |      |                                  |